

## 第5回「愛知県の新しい都市計画の枠組み構築に関する委員会」 会議録

開催日時：平成19年6月1日（金） 午前10時から午前10時50分まで

開催場所：ルブラ王山 2階 「金鯨」

出席者：（委員）

奥野委員長、海津委員、片木委員、後藤委員、竹谷委員、林委員、山本委員  
（7人）

（事務局）

湯山建設部長、須山都市計画課課長はじめ関係職員

（市町村関係者）（7人）

（傍聴人）（5人）

（報道関係者）（2人）

<文責事務局>

1. 開会

2. 議事

・「愛知県の新しい都市計画の枠組み構築に関する基本的方針」の提言書（案）について

3. その他

4. 閉会

【主な発言要旨】（順不同）

基本理念を通じて、今後の愛知県の都市づくりというものをわかりやすく、そして生き生きと伝えていくような努力をしていく必要があると思う。

今後検討していく際に、どのように都市域あるいは都市機能を集約化していくかということ具体的に検討していかないといけないと思う。市街化調整区域での規制や中心市街地の活性化について具体的に検討していくときに、非常に難しい諸所の問題が出てくると思われるので、その辺をまた一緒に議論していきたい。

都市計画に関連する制度、政策とコミュニティレベルのものがどう結びついていくのか、これからそういうところを着目していきたい。

かなりいろいろな意味で県民に応えられる内容を築き上げてきたと思う。特に、都市の持続的な展開は、背景をなす様々なところを踏まえた形で行われるということが十分盛り込まれたと思う。

都市づくりの主体は、県のさまざまな事業体であり、県民であり、それらが行政と一体となっていくものではないか。基本理念を実現する計画等を県民と協働しながら構築していくためには、都市づくりの主体を明記することにより、それぞれの組織や個人が前向きに、主体的に関われるようになるのではないか。今後、議論をする上でこのことを念頭に置いて頂きたい。

アジア諸国の人が移動したり住んだりすることを踏まえ、都市のあり方に「多様な価値観」や「多文化を受容する」ということが入っており、土地利用と表裏になって、極めて今日で重要なことが入っている点など、非常に全体のバランスがとれた良いものになったと思う。また、都市のあり方に「連携」ということもきちんと入っており、理念的な言葉遣いとしては大変良い。

「都市計画区域マスタープランのあり方」の都市計画の目標である「人口動向等を踏まえた住居系市街地の形成」に関して、多様なコミュニティということを受けて、コミュニティの有機的な集約や多様性の維持というようなことを、今後、上手く入れ込んだ方が良いのではないか。

具体的な集約や連携についての検討のために、データを整理し、どういう評価軸と評価指標でもって戦略策定指針のようなものをつくっていくか。これらの方法について次のステップできちんと入っていくと良い。県レベルで、ある程度の基本的な方法論の検討と評価軸、評価指標、指針のようなものがあれば、少しずつバリエーションをつけて、各市町村がそれらを使っていけると思う。

都市計画区域のマスタープランを具体的に早急に定めていくことについて、市町村合併を踏まえた上で、地元の意見、意向等の反映をどこまで県が行っていけるのか。地元の意向を尊重するのは非常に重要な時勢ではあるが、やはり愛知県としての方針というのはきちんと持って、その上で地元との調整が必要なのではないかと。

この提言書（案）は、委員の今までの意見が県によって集約されたものであり、本日、この内容をもって提言書として県に提出する。

この地域は、日本で一番活発な地域であり、その中で暮らしの場、仕事の場として、きちんとこの地域を守っていく、整備していくのは、都市計画、土地利用計画の役割であり、引き続き委員の御意見、御協力をお願いしたい。